



平家物語巻第二目錄

らとれさいの事

ゆまのつれづれにちうらうらう

さいくさうやうしちうまきり

小松ふのうはてうまきり

たんとものせうしんせうむかんれともの

さいれ事

ちうりやうんの事

ちんたふあんせいまきり事



平家物語巻第二

らと致さぬの事

安元三年二月又日てんたい 予の書大僧正を  
しやうをとくめられあくるんをうれ給ふうるく  
らんご紙はつひひまてはよいつらんれは切れん  
とめしやうをりて侍らさうをういふさびら致を  
おらちこらやうの侍のひとつあ今度れつるまを  
ひよありなりしとめとのまうかんとめられ  
りり又くの國へはすれ侍らうまやうあり是  
とぞ侍らうてうもつれあひたりんとの大衆との  
れらひてそせう侍らうこは是すふてうりの侍大  
るりすしとらひわらうしこい ちまうわうししり

ひしつろきんきうすうふらふらでやうじうぢがきん  
けきざんりりてちうらまうおほくわうしう  
かりあまなやうじうのゆえうくわうふらふら  
しりもりしやくとせしんくまうのうてはまを  
てPされたり物さふ十一日は鳥羽院れせのみ  
やうつらまいかのちんわうてんたいさきよ  
せのふらまをこしやうけん院のたさう志やう  
やうらん乃てししりぢりすす二日あひい  
志二人はゆきをきんさともあまのせあうきよ  
つらりしやうしうふらふらてふつらたしゆぢ  
すられあくもれしうらなうひよぬんれは  
くんじやうとつされらるるれともたれうんら

せられ、事あらまらぬ目林日た政ち後ハ下く  
まやう十三人とのしくらんのはふつきてきん  
きふいらとれらるるちやうありなりもハてう  
の沖一納言なりてくわうたさあま  
のさひしやうまてしちふひりるのPされ  
けらまほけあものうん志やうすまのきてとさ  
一とう城けん志をんれせらあしうみえては  
るやせけんすめあやうさうらり川  
うんらんちんがくしうようぬれとくあ  
よさうけたてまうりしあまやうのぢやう  
うもれもたせを家御種の一ゆいれをうり  
れらうとてうとこあまをせんしやうのせ

うらしんくつとひくうまゆらんうくまんとそり  
たつめららくくまうのちいれくのつくりふとそり  
可く中されりあれしなうまのくまやうみかと  
うととやめりしれとれもほうまうばんつふと  
つゆつくまあまそらうらまうおれりつとあ  
めりり僧とけとすらびひしやせん所とて  
きんうくせう様大細さのたつふゆり井の松枝と  
まうくまやうとけあられくるうめさ海しあ  
ればうらと二十一日よせんさとすまおつこの國  
るりうれはふしとまふとししんくを  
くよくされとれとそりめりす大志やうのへさ  
まゆるりおんさあさんとてぬんさんさくれと

けまてのつぎのあてあつてもめされたりけ  
れしくまらうかたうのまやぶられくる今世やりて  
都の肉とわいしゆりすくしあつたそりのく  
まびんまやううらうとく白川のはしうおまつとじ  
うひてびめしとちあねととさまらう抽ととるの  
あう様あつたつうまはとうとつてさきゆひてめ  
まごくりのほとま一まやうのるけあよへお  
くくちらそつとせぬひりる山口の太流とよせ  
じ振らのめとまもさくまうやうとくしやと  
かまうおやこのらやうとつてあんがらんら  
しうよびまはまひ十二ちんまやうのうらあんひ  
らたしやうれひたりのつめりトスルまをま

つれづれしく十二にんをばうしおをわたり  
とつらうきすましのつらうがうしを余路の  
とつせぬとちのうけりしうばうはうにれ  
たりよ女と目きんこをえわりのうりれをばう  
とつしきをゆひたりゆもやうじの大徳と祖の  
人ふううめれは衣袂もさせまなりなううんむ  
まのうてけりまのこまうてこやうさうちく  
のきたはけだてゆりうせまふとりのさりおまふら  
ひし叶へばもひりせはゆむの中へうじうら  
れとつれあり大徳のうりてれもまうさあり  
とつしきんちぬうれまくのちろくともて  
みもろるとこの女見えはすまてまうがよしわ

くかきしよぶひのひかりかおももの  
はうてうらんやうりこのいまあんだまうは  
んにおほりりのきんらまのあありをばうま  
つらきとつらまてをらりまてつられり  
よぢしをまてまてをらりまてつらり  
たあよねんらんはむ中へおひきんれりさてんた  
いきんしうりひうやうしんこまんののりんま  
らひみひちまやくおぬれをいしてうらん  
さつあられりりひひやうや中へやうらん  
うくのぬてうりうなんあく力のみやうひくなん  
てんらんれりしおがさうりまの志い  
らうてんまわしつらとちふれおさげよ

あき派さつげら致さすのつてうもろくさんる  
ひられさうひとやうてうろしもとぬうくせ  
らねてまうせとつぬとめりひくしふわう急のた  
りくを志かりほくうぬられけりそめもれなるは  
めきこ中そひくうもろ天皇のたひせれわりし  
をぬいちんまうろい六たひの侍ぬり急いと  
うの大細言あふみちのまやうれは子ありりんこ  
ほらんうくやうひなふひうそうもてれはうまう  
もろと天まうあなうひよ六せうちの初高とそら  
終始ぬり仁安三年二月十日まらんといさす  
なりせのふあぬりやとちりくすろしつひらん  
そまやうとくの福をめでたれとそとくししめ

いうんとやほふまうひを祿免いうんとつこり  
日月れひろととやうる志もよらもありとたんと  
中りるのちうさうりやうはうすもまう一しや  
くろしとちりあろまきあましくまれあまうれ  
中一はあししよりのれあま一書ありてんひうた  
り一末代のみすれ志ないともてあうは一所の  
まうりだく一しやうゆりしのれをほもいたうの  
可いあまをひくつてわりゆたのあるふまてまよ  
見えそとつまらるそれまらむとくしゆらまをす  
りこのこととくまきおさめて所のあくたうひあり  
めきもはしひたうのたいてよは又とひうつてみ  
めんそまらんとうと志やうまらむはひく天皇のれま

ふーまるとてみす又代あももりのうんとすしあ  
まひくわしてなきほとの人まればとせんせのしゆ  
くちりまやふりるうまのふりしせほひりるう  
ふーまなれらるほ、ふしつよまをこ子の大成大り  
うたうれ海すらまいおろしてせんきりりるをそ  
ましくらんあうちりの御事、を中と中よまよ  
りすま志んくましやうもちあのがくちんもふさ  
ましくまりていまうれまいしとまのわねと  
つーくろりのんひりんすらよむりしを曆年  
中一み植哉天皇てんあう大御神らさまとびと  
せぬひてらんうていそてふとれうのしして九らう  
のあうえとひく又大成しうらんふりるわがま

て空のひりやうをひろの海しよまはひひひなり  
くヌーやうのひよ人のたをて三ふれまやう  
よまよととつらこまを一しやうとくまゆと  
まふりてぬりともあ七結のまいひんあうたさり  
はくま川しはりやうきんをていとのとうや  
まそをばて大成やうれいうくつまりあの大らひ  
まのまいひくまをうまやうのままんまわたりて  
こあくのまいちららまの然このらんまうち志  
ひみかほあやらんちやうおーひこままの伏あひ  
まんうらふりてのうのまのまうし志の海をた  
ましくしうまのまかむりやうま相しうまひ  
まこ子の大成一人まのこまとく海らぬあ東の



りくおぢりるるはすせんをあんらんのかみ  
しゆ忍しとせんふ志りるも抑今安まぬくあての  
よゆふひうひてくまんと志ゆととりとくめをかへ  
ししたくしとやうううとくうのあるおんをる  
ゆるぬくともなでまららん事ありのいし今  
もすせんをあんらんの清らくこれ外をこの見え  
流しくなりとりんらんさきたきて中風よむと  
る法師よ志ようせんを法ししのもうくしよほるま  
法とて志やうねん十八さいよるりくるあふさ  
おのせとありしせんしん派らるすめをさうし  
せん志あんまんねり井う幾汚るちとてよをふ  
るるひつたりたり大志ゆめやよみらるよたくせん

しとつしくしやうしとくむしとつしとつしと  
びうらよつりてのつらふれらんしゆ候をたあ  
アしうらるるふふいんあふとちてを扱け山の  
りくよあふ派とくめしも何よりもせんくして  
りんもら海をたのす大旅ををぬきてみか神と  
ぬらしりるましとふしせんをあんりんの清ら  
せんしとてむらしまさを扱らるるしとをたす  
らんすのあうとみせしめゆんそしゆんくお  
ちなうひんる老僧よ人のりてくよりあらるねん  
志ゆが火ゆのの上へるああきたりるあんのか  
まはしとつりてはねん志ゆと清られいとく  
あつめとあしとくつとくつりとのめしとく

わいせつといふも十まんちんちんらんらんわく  
たふわくさうさつひたりとしとのしくじさみをお  
しよそむのひりくあるひに包りくくさあつお  
らぎだれもすりふのゆをほくろく女衆もあつわ  
れひをやまこやまをのこまやうふ丹とぞを志  
ゆともありあ志のうんづれこくありあれとさ  
しよまひまけなりほくろくやうそくそくせんゆ  
とまのつものあくせんあれほたうそくすそと  
ままりてびりくそそありまろく大志のまじり  
あれしせんらとれそひりくそらうくつんの  
れし丹のひりくそらふおあへらぬやううあ  
いさむれいそんやちふとつふつる部の内証とい

おまへしとそりしせんきんししのすりこる人  
そやそやとらふそかよあす今そとのしく  
うしくそるりれかりのふかしとほしちあう井  
おそのけひりくそそそとあひらまひりんの衆と  
おくおのあひりくのまじりししよらうのしと  
ひろうそんしとれひうやうとくしとそんそつ  
あつとつとほくろくへひとへお我山のこくまうとの  
みりり人の國衆といなりを家事しもそらうのあ  
らすりんとほくろくこびしゆそぬりくそそあ  
うそよ山志やう山まうせ社ゆめをせうらんと  
あふらそ力りゆのやふた事りけりほそなくしと  
せんれ乃ちうらまうとこあそれん事りせんせ

のーぬくまうとふしむと人とも神とも佛と  
もう見えぬ事なりと心ゆとのあまきと  
ひまらふ結をぬきしと中へ行くべし  
とてわううめの神家此神志がぬけりよみえ給  
るも大龍もみれ候とそおひけり神ありとよ  
きてとくくつさぬるうのしと中へ行くべし我者  
三子のちまんと心ゆいふ今を人かかして  
つうてのちぬあつさたしくやむるがなふと心  
くちやうらよふらくあられてきかかぬと  
とひ海にぬかぬとつふ世がひくあゆにけく  
てまうぬがらめとてぬりぬすあひおきいた  
のちうまよつひしやうしうのめしやこゆあ

とてしむけせやくららとつりけりうら  
ぬくーのうらぬたあうめなるのしと  
ま三まいつふとのぞくーめしとく  
たこまぬおとこえけりうらふ  
ぬをぬりてうーあへうしと  
のちうししとて是をとる大龍の中へ  
あくせんさすのあまよきりて  
くぬやらんをぬむとしよう  
かうううあつひとて  
やふら見えたりとちこれし  
つうまゆあーとめされけり  
とていやとあやうし

けしうらもつはたよとちめがくしやならのまら  
さけきつてうれかりくるやうてきれりてんをゆ  
うきんかくこらんをうれせけんらんをうもら  
ひ志よをよくれをゆうあいにしよりしほよししり  
ういてもなふふとの事とくしけしよよまりてさ  
きもさりてええさうるの味とわゆひのうとくま  
てないのうだうのよをうりつてうよんうらぶた  
しつふすてみせんきりりきりきりきりきりきり  
けんとりとえだてくらんせりいのであきん  
まやせんええりりうゆうあいうれれしとくふま  
すえびくちりりさ救山をせせぬさりのまいら  
らんふ國家のううらやうなりされきりめとのい

しゆしんよあといやまやうとけしよりてん  
まてせりてあきとのろくきすいせんやちきあう  
まうしりて一さんれうま志やうたりとくまやうな  
もうして三かのくまんと志ゆたりけとあうしと  
れれらうらまふれこあしとくもりせん志やう  
をらうれつふらけここうゆくせんしやうのあき  
たりふあうらまやまれけしよしとくまてらんみ  
のわうしとくしひなり志ゆりりりりりりりりり  
いせいのつとあといとせんるりりりりりりりり  
今春三つうのらやうめんりりりりりりりりりり  
とれいふよとこまをれりりりりりりりりりり  
びるりあんしやうのうんりりりりりりりりりり

此へしそしあうのんち海よりくくおひ  
あれし大志の。ともくしてあを成をとうたう  
のみふみは子のうらまうこくをへを家されよ  
してそゆうひいどしつうめしりとそ中ひる可れ  
まうさい成をあんいれんそのつぎ路をさりたる  
まや大ううの一めあーやまをらんそうとまうて  
のれはちそうありらんううのさうに成うさひま  
るうら路ふ事ありらまのやがくがふじ志らな  
まううことうれいよまらてくふらあくるをな  
のされけの佛の國へし三のみらきゆうらるるん  
らるあんちのるるそ中ひりゆうきさそ成をん  
らるんちうをらう人のかひら中よまあひ

あひたうと中七日七夜成あ加目力光とみと  
してゆくをや一むもらうりしの人をしがうま  
まもれしうのあひるるそ成されけのさや  
うくしとてひとを成くさうぬよそんときと  
ひらんくしとてむととてんあくよ馬  
れ一急げらるるそこのあめ成さぬほーあをを  
天るびとられけみとわられませのひて九ううの  
し、成をせんし一め成てら一のあは一めな  
のゆひをくいさりたのたひくし九ううのひく  
らるそうのされけのるるんあうてうそん  
あんのあんうん九ううのあんならるそあり不  
うはうしと門のあをんらるを成とくめをりさ

り一せらるるよしくいふうらすそなる一めりり  
西光の申しふるや口の大流みそれりし一かそせ  
うは事一じまよはしめをこしなうら先福のらう  
あかひまきしひいさかひをよつす今交も一ゆる  
きゆゆのひりくせやよまておひま一のひりま  
てふくしくほいま一をあるアしと我方れなく今  
ほろひのしすうとそとて山王大師のまじりよお  
もさうのりまならすうやうりりいよしくせん  
きんとおやう一まおまうくびをけうくむとすれ  
とそ林の流あきとやありまうとむやわさらのな  
じとそまきさんしそとまらうとそとそつとそと  
ひちんい國とみこととよそをまとやゆれとよふや

うの事一とやア一ぬん一ん大細きなりら  
のつゆ下のさんちのよおゆてとせめらぬん  
わかまうしとまゆわうとらうまれなりら  
まの兄一ようついとたのしんまアうもあうを  
とそ肉、そぬんきんよとくうひまれりありは  
せんさすをぬ光条おほくらの大しゆあいあ  
ありやまきとゆいてまうしつうなりらわらん  
らまとも思るたれまもいまうたきいれあをふり  
つたりま福一とん大細言なりらりのまやうの  
わさく一入むげんしあうのさうとうふりてま  
ほくくまをられらうと探なふまをくも換こま  
ま一とままやんらうとまをうりよものなふを

くともしるりあるしじすとのまれのさ  
ゆふつれつるらうらうら  
佐の國らんししらのくらんやゆふつれらの事  
ひやくさりや思ふじそつちうりりつらつらくま  
家のもんちやうとみるはたやまぐひの母あひい  
し大納言のころをゆくふれらんひやういくほ  
とりーらーがふ事ーふこみーちーあひまー乃を  
まあるせさ所まうれまうーまうれなんを他人れ  
らうらうらとれぬうれふけー辛家へ中て我力の  
さいりん張のくれーやや思ひけれをぢりーさふ  
母女九日の救よ入て入るお國の志ゆく志ふま  
ハ糸をそまひりりらゆふはまうら中一アアこいひ

てまいつらしてらんしーあれし何るらうそれまのこ  
とちのめれ判夜まりくらふをこくされたり人ほて  
まてをがなふまーふらー中ーる入る中一門ふ出  
つなれたりあのを救をけらふあもてらうあう羅  
めなりあうらやのうんしひれまめれこけうひ  
る救ーまた建ててふつらてはうを院中一乃んこれ  
ひやうくととくおんくむひやうとあつめられぬ  
事ー張をと流ーのさねく流やらん入るツこふせ  
めら流へししうまひとよふししもああーの  
あふもゆまのわひらあうらうていやうれさま  
てそゆりすまん大納言以下のかん志ゆのんをれ  
は一門張ひくあけあうせんやうあひこくまれ

く入るちさよおころさ扱れやうのいしと  
きと海一のこれとふり志さふまやとふひゆらん  
そのおあふん大御言波のくじひをうそのめら  
まゆもりとせんとしてじうもよがこれひしうを  
ちくの乃ぶとて人ののうらうらととも西光の  
や甲てとゆしんくまんつらておせりのま  
よもうとてさてP此らとつて海Pてまつと出  
たりそり初りなる大をんまてさふひとともひ  
のくちり結ふ事おらう海一のつれおまら  
れすつひのせしてわのたもせう人よをひのれん  
さらしや大聖よ火とてなすらんちとて人も  
そぬるしとてしつらとてつりふ門おおひし

てとくりす急よひり色とるすうちたりつう  
きたとゆへとよへとをゆれ入る後には守り  
めーやのさうとて京中へおびりん力くさうの  
みちりしてあふなりそ一家の人とともぬま  
せさやうひととこのとてしとのつらとておま  
わらりてもよほとらるよ小松及びうらととも  
よもさとしとていふとぬ人こそとせんそれ  
おあ將ひのきりとてしとのまりて三位の中將と  
うの中へおる海一のつらとて下の人こそ我と  
世系れとておさうとひとんひやう我う記おと  
せ系るおのうらとて西八条とておまお結と  
おりつわくれし六月一日まてとてうらとてお入



きあひつゝあるれすけり成りてやあすけお  
つてうらうちとのをかりてのふまりとよひつて  
しそそうせんすう懸うとよなせんしゆのくそ  
ら其あまりてうおんよがあららまけんよあ  
まさる備えをけりがとんとくひこうはさいと一  
一よのりそしたつてあらしすうとせしゆせんお  
そあらしし免されううくんとくせとくうのけ  
ひたれすけり院のゆゑをまいつたまんのれい  
ふたつておとてはり入るもれおなりつろ  
どしつたひてゆ由さうもけりおらりお  
さじゆめきうあひてつしやあけらるるは  
まそ事れもやもきおらるるおらりもら

らん也おゆりもとらあさいあうとらぶととこを  
なふ事らうやらららとておんしやうのゆゑ事  
もなうらとれをけなりつるこおりてはりて  
中をい入るられきさうよのゆゑをあらゆ  
まはままらとてまらつてあらうをせんをん  
おありさうやとてひとれりもつておんその二  
衆つゆと世のとの太衆のゆとまるとつて  
うらひつてそのやもあらをけけけのもきさ  
あてぬえれすうとてゆらうとてけけの  
しん大細きなりちりのつりくつとてあらら  
かへつてあらしとておんしゆつておん  
おれん大細きあらしとておんしゆつておん

やらしめられおせめらなくさういふと寝るうりせ  
じやいやりその外おほいふふらぬまうのあはれい  
りふもあらなふまきとてわの方のうんと  
あとおとれりすなふまきもあなるがうことやうお  
まじりてくはうのくるまのあやのなりふの  
まじりてくはうのさういふはういふはういふは  
まじりてくはうのさういふはういふはういふは  
らよしう思ひあをさられ西八条北のうなりまう  
おとアしと見給てし思ふらやうすらやうりまう  
ひやうせとてうもなくみらくてし今もいふ  
れらうとあやめおひたうしやこそ何事か  
まじりてくはうのさういふはういふはういふは  
みまうしうりうもつてまのみちくちやちや

みまうしうりうもつてまのみちくちやちや  
門のとよまひたけならぬとこ二人大納言よまむ  
りひてらうのてとひまひりまをりてまをるひふれ  
と一まおいまりめまをるまひやらんともいふし入  
るめらうりうすこのたまんやつてまのまをす人の  
中よとらとこめをりて一八月のあよとてこめま  
大納言とてまのんちよとておももれりまはや  
もみりくさうれらとよたままうひまをい  
らうまのりたれととておまうられておまらふ  
ますあうとまうしういふいふまをうとくま  
とててひまあらりぬまは面さ二面まらよせと  
とよせじいんれま一とていふまをうとくま

まじりくつらうやうししちうきくちく事

中一もさうしちまうをば事いぬる中さんとして  
やうらうちとのへ来れ福よるまて平家乃流もも  
のともおめあまらに龍の流つん西へ来ぬをり  
此はうぬやまりたま人と云もれく是も流西やそ  
うすくまるとありやうてう色に来れししやうひ  
たれしよくい入色の何事かそうす人えさおい  
もせそくしやうてさるまにたてひこおとすて  
つとる目か何一つよりさういふらと云のまのまれ  
しとてさくくふいさうめてうへてのの流不  
乃りりよひまて人よりへる中一門小出流ひてさ  
やうつひとけあがさんせやうやうけりりなれ

まのこのおもちあふこよや流あくるひまよをよ  
とてひまよこら流まうつじらとりをむれおくし  
うてのあひたるをよまのまうやうた、下らひ  
乃りし流天ののしけうもせ流ひてなるとまう  
くしんちよくとさひかへるとさあむのちう  
うひまよや流とさうまよしきてのやまらぬてん  
たひまよと流さいよPとこけひ天下の大事  
中一あまらる流をひくゆりんとするむりんお  
あんだんしとまれとをみれちりたりすこや  
うおPせよくいやうとのまよしとまうちらと  
もつちもアてせす井が流Pつて流る流のりる  
しねさんとそPりるをいやさも流うらとよ最よ

めいけつのもろくかゝてく人きあんと人の初あて  
びらういふとん大畑きあぬんぢんとておよがさ  
まはしうもくこせふんもやあーそれさうし  
たりたぐとみくふとく天取るりそはせ山の旭の  
能人れおとてとちうと海光おとらあまてさやう  
ふくとあんのいしとまもきとあうけつのはんま  
しーたれ口こさらきこしらの海動しこまやうゆさ  
屋うぬの子とてたもせしうとと十回又まてと  
ゆいあもせすこ中の河口のりきりれまやうの  
志ゆくとよへつと母そちりつとゆーうとまらう  
そたうあつてこまうとらひししうはるんのか  
ちたぐもりれおははらとあまのつみうーとさん

めが保えりけのあてよつうくのちやうぢし三十  
よんつうのちんをうけくらんしやうおあんと十  
八九とし回ぢんしと回佐のひやうゑのまけやい  
とまをとり町の人とらんあんのけりちとあひ  
あつて口の口とあしてんちやうれましつととた  
まもつてくれゆひ一人のちろんのち改ちたをまを  
免君ともさきとせすゆとましんちまね道ううく  
そふんとしつとさうやうひはてのものれく志のあ  
あひつてはならるりきんまびこしうまひなふん  
あつてさされまならふしとあくいふひなるてあ入る  
とのとこくうるとまうたたく中れを入るあまの  
まゆとまふんてあゆくのまひとあまよと



て大納言のお母一りさうさうの程ふわふわと  
ういて人々もさういふことおぼえさう、今うい  
あへまぢらしむおぼもそれのうま入るさうの  
のみ一りやうのうまはあたらぬみさうい  
おぼえさういふことおぼくつろいてはさうい  
大納言のお母一りさうさうの程ふわふわと  
ういて人々もさういふことおぼえさう、今うい  
あへまぢらしむおぼもそれのうま入るさうの  
のみ一りやうのうまはあたらぬみさうい

おぼえさういふことおぼくつろいてはさうい  
大納言のお母一りさうさうの程ふわふわと  
ういて人々もさういふことおぼえさう、今うい  
あへまぢらしむおぼもそれのうま入るさうの  
のみ一りやうのうまはあたらぬみさうい  
おぼえさういふことおぼくつろいてはさうい  
大納言のお母一りさうさうの程ふわふわと  
ういて人々もさういふことおぼえさう、今うい  
あへまぢらしむおぼもそれのうま入るさうの  
のみ一りやうのうまはあたらぬみさうい



うき小人のうんらん  
とびくともうやうれ  
のくまりゆる小はま  
るう屋このられぬ  
ありき海ありうも  
ありそのあくは川  
あねそのあせと  
たれくくしいま  
もひすてつしと思  
介しくとむが  
とぬるくもう  
小松とのす

こまのそのせけ  
あうひ二三人の  
とをねとやうあ  
小みられられし  
いちちおとく  
大事おとくん  
ぬちらしと  
ともし入る  
うやもい  
すしお  
ほい



く見ぬ人しくもてゆいんかつりあまやそふ  
我らしんこてひまめをきてみるまを大納言海  
ひせひてうのうとそとけりたるりまやとの  
たまんこのをりちあひととくは見えたりてうまを  
けよふもれこちまらあくまてあくあくちん  
らうのさひ人ここのはれうがうあひんま  
はううましこも是もをそまをそまをそま  
あんやながふるもそびらはれのまらひひとあさよ  
まうとらるるもそびらはれのまらひひとあさよ  
このやうみりそとまをそまをそまをそま  
アしやぬまの扱わさうせはふとさうたりさ山  
うた海やもこの見え入集りていさんわう平儀よ

いのうとたすけられたまのうせてまはれむいま  
たがうとけくこくひあまれ今夜の命とたすけ  
さあはけりあう人あうひひかひのりたふひ  
うりやうてととくまらりあうやここののゆり  
うもらりここのうとまらよふまやうかたかれいの  
まをそはまゆりんとまされあれむりりま海も  
人うさんけんまそいらん今交代ゆりれらをも  
まをたまけ糸らせいのまやまらあうへいそく  
まをたれま大ああんせうまのまああまらうま  
まをたれまとこのまを何けりる福をいれくあれの  
まをたれまとこのまを何けりる福をいれくあれの  
くも思ふれりるたのまらうのあまはるまらうま

清ひて扱大納言とさう志おちるへふかましくや  
じよ細よやとよふばくれとまわまりとまのぬひ  
くるおとくすされくるもの大納言うしあし  
ねん事いりくくへつらまをもゆるを枝りぬ六  
束の志ゆくの太夫らんまのまやう白川の流す  
めいけりもれてまのまはうのてうちんとして  
くくぬふ二徳らん大納言はまりあうりまたりと  
も夫のぬあうの流すくおし思なる物頭さうたぐ  
う志あるまきんるすぬくくへつらま又かくま  
えあうのされくはまももへまのひのるうら  
うそつよくぬひんぬむまはうへし水盤の天祿  
を志るひのれさくれらんまうすまうてうえなりと

さいののなきまはすのまうのまの太らんをだ  
ぬりしんからうさんそうすまうてまかをせんや  
うれきうのくへぬふまみかむひされせい  
あんのの流すの流ひのまうとくうぬれ上たりて  
くくのまういもんや束代とるらんまうは流す  
わやまりまいもんやかんおとつしてせうくよ  
く流あんもまうへしんぬぬたつみとぬへしこ  
うらまいされまはくまうとくうあぬぬれもん  
のうへつらま流すのろくまうこのうへつらま  
し流すまうのんまうとくうみえてうへお母せめ  
まをらぬく大納言とくうとくれぬぬうんまう  
まうなまれもまうまうふのまうそれのうんまか

歴うよっー 強はせうりしなりのらんおとつとをこ  
あまのせよありてもなよの仕つと併へまのりまて  
のせりもらんまをれそく志ききりのくひとめ  
さるへしうやうみり併へし志ききりのいもう  
とふあひくくちちちりり又びこせめこくく  
くくこれ色くとも思ふこれいれんさうたうれさ  
くくもゆりすたぐ世れためあれたあまそくく  
くくちんやきりめの天わりの侍町じやう志の  
りくみらけりれりりりらうさうれてまうま  
のこ志ぬれまれくり色れまーまき色ぬのんれい  
よりりりり保えまて世も代たててひんーふさ  
いさこちんせい入るのしあらんぬ可よあひりん

て甲しとこひひうられさあのとついとありとあ  
し志のりえさうれしりなまあまりなかりま  
つりこくくしうみまのされしあるま人のこい  
しよとあまりよしさい強とこなりとれまういれ  
いよむぼんこのこくくたしそとやあまれとす  
わらきし中一二年ありて平伝りりりつてさき  
ちんせいの入さわりの方も都力外しうのまれたり志  
のいくははくなくてわりとこそれのうあましは  
地とたことあまらんふりりられし事あまを  
むくぬまもあまり尋てわう海しうぬしあ是をさ  
せれてうてさうまもいりすた政ちあまのあ  
あまらあまいんこのとれあまいぬあまあま

ひくまぐもまんーやうーまほーらんぬ  
うれうーあくさまうんはほく人ーやせせんぬ  
おまもあひりーやくーのつとーしよしう  
とんれとーうみしてーうまこやうーしよし  
おれも大細を今教ーうまん事ーし思ひと  
おまうまひり何とく中ー門小出歩ひくあひ  
まんで治せなれやうて大細言何うりくーお  
びるりあるんうーう入るぬの治やうまう  
おれまこし明ーま事ーあうしゆこめし治  
ひあうーしひのこしよ明又あさつひぬ  
まうのまらふうぬまえりんぬまうう  
細言小なうひなくあうまうーのまうい  
うーるなり。れまめをうらほりく  
るまあまうとそれへてそれるおとく  
まひちりーほくこまうとるそりぬ  
ねも大まあんのぬとまありほく  
門うーすまろれ治志ゆく志よ  
てりるをうとまうー八条ぬま  
せ治ひて今教すをう志うし  
ぬぬつれぬかおぬを何ーの  
もみれぬうれう幾つぬし  
るはれぬ水のがくし何ーの  
まの母事かのためなうと  
れ今を母ーとまひりう  
うまうぬらんつた

うーるなり。れまめをうらほりく  
るまあまうとそれへてそれるおとく  
まひちりーほくこまうとるそりぬ  
ねも大まあんのぬとまありほく  
門うーすまろれ治志ゆく志よ  
てりるをうとまうー八条ぬま  
せ治ひて今教すをう志うし  
ぬぬつれぬかおぬを何ーの  
もみれぬうれう幾つぬし  
るはれぬ水のがくし何ーの  
まの母事かのためなうと  
れ今を母ーとまひりう  
うまうぬらんつた

この世の世はさうくもつと申されもれ  
水のひくはつとせられさるる人もたゞ  
さしやもつともなうし申さうもんい  
なれどもあさぬといふもさうはさる  
うしきのみくそなるまじりすふ  
せん人やもむじりもあさぬといふ  
てらちりちりくうしてさうも  
のひさうせめて車おたりぬ  
見はさのひめきと一車入りせ  
ふ申のみくそとさうへ大  
かこさうんぬんのあつと  
うういふれはさうもつと申さ  
るる老も

方のすてつとけさつとま  
さうなりつとせられつと  
このころさうまわりてくれ  
細言今執うかかれさつと  
命も今いくばうもつと申  
ししめつとせられつと  
さうもつと申さうもつと  
つと申さうもつと申さう  
てするも馬屋といふも  
おつと申さうもつと申  
ちもさういふもつと申  
ひとらつと申さうもつと申

人を抽きたわうも戸はさつおとせくるそのもれ  
らねるねくう時目までもありけるおよのまふ  
りしれあかりき海志やうーやひのすいのことひら  
を先代御人ーくうあくもれたたのーこつた  
てりぬしみさくるとくまもるうーやうこ  
うの筆のつとつらーうおりの志くれなれ  
だんものお将こうびあんだ業政さつれ事  
だんものお将なりつひきさのふまら院の佛願  
うんすー志てはもれけるいままらんの望もつく  
られさうりるよ人ありてはりーPなれとせうと  
屋うおとさうーい毛祖ハ中ーいーやうのりこよ  
まはまられぬやうんやうのあひとあをさー入りの

まーやうのりこよまはまられぬやうのあひとあをさー入りの  
くーまうりてさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと  
とのあんやせう志やうはせんのだん志の女房  
とすひやーまらてさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと  
里せらんもゆとすくおさをもりく山はまもまきい  
のふれ太えさー海らまらなしくまそもあてゆさし  
やたりつひあかりうあまてはかりハさいよら海  
うおろーま十二まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
てうまふあふらあふらのほふまらまらまらまらまらまらまらまら  
あやとあらみとあうあり候けるよりのなるあよ  
ああひいらんこらん大御堂ーあふれんりくあ  
まつひとあらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まこれ今一交ゆふよりの最と見えし世に  
みくくしく我方をまうりはぬるうと  
ふふとそれてまうりむとすれはりあれと女  
うたち清おふまうりあのおり中されれも法  
されしうけせんせんりのりくまうりす  
そや清む事ありさるまうり今一交ゆふま  
やれぬせられもかぬ清きんるそまうり  
まうりもむかせしうさるれはりあ將日  
りし事しもりやうりてさうさやうや  
中てりしられれもやうりせうりやうり  
ろとされしゆゆえしとくせゆひてまうり  
いさうありありされまうりせゆれぬ事

わんせりんせゆゆえありりさうりし  
かると目しみなれゆひしゆ中りくか將の  
まありと押しむとたりしと神ひり  
海おびせひひりか將も今とふとや  
あれしうくろまうりそゆらされるまうり  
さいしやうのりそりむりてまうり  
のちかえと見ゆふせんかちちりさん  
のふまうり人まうり月も何ゆりなや  
志のひりるの又は事しゆるまうり  
はそれゆりりさうさやうまうり  
うらうちるぬとむられりさうり  
まもせすあられゆりまうり

てつりしもなしくしむやまのりまかんとそのつひあ  
れせうちやうののねとみ六束とせしうちりせ  
うきやうのれきとすりすりして君られかろう  
わさるせつひひさきくふそたて糸らせてまを  
ひくぬしちもとたれまらすつひの上おとなりく  
なせせつとんと我力りうのいれともとせし  
あつちとらう一サ一まてたてまつりきてぬん  
つもうちへもはまありありてとろくつりてあつと  
きくおぬつりすくさひしとてうおひまうせつ  
れよつりなるゆめふつりしてつらんとせしやん  
まあれしいだうなまけさうさいとやうのさしれ  
けしきをしさうりやも余けつらとひらけつらまん

をらんとのかへともち糸をたつもくこくま  
所きやうたつとらまかつれ事しそなふち福ふる  
いとらうらとつらひまなとまをれとてつらま  
くうとまのうもなつものさしとてちやうとらま  
たりぬしやるもとらしやてつらつられけつ  
さひしやうれうりのなん女なさんといつたりこ  
とくとのめささけぬもかのためなす保元平治  
つよゆと卒業の人したのし見所のをてとある  
あせうれをさあふりつらよふさいとちやうとら  
おらうらとらつらつらつらつらつらつらつらつら  
れたれさいとちやうとらつらつらつらつらつらつら  
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら



まへにさしつしはるさすひのちゆくちよよおろ  
ととまをりてさしとやうらうらと入路ふお将をた  
のををりけささしとやうらうらもさなれぬひなつと  
とまんのひさなくそ思ふれりつとつとつとつとつとひ  
ともうらうらこみくしゆあしなふささいさむらうら  
はてうれかか門よおこして入るおあもれくさや  
たひつんを海さんれれやもやみももむられさり  
あれもらんたつふの判要すあゆととりてたさん  
くるをばりそりりしなみされくらんよびとだを  
れく今所ささやしくあうへせらうらとさうひはひ  
とつひくあうあせしはあうらうらさんとささつとや  
らんあ流のばねとゆとやらんおあもんけさるの又

はもんささうらうらあてみくはれりしとつれら  
もたもぬへくみさゆれもこのうらあくはつとあ将  
あをさほくさの里そりよあつあうあれはあ  
らんあしはうらうらひの事せさを統つかたあ  
さあれとす急ゆさまひきては由とあさしあもれ  
はささいとやうの物よとむあぬしととあさるさ  
のりめとてさししとせうらもしあつすやと  
て大細言あをけりかさんをだのこうはあされ  
を入らうらうらつとささるふらとてしあ事しとやとあ  
れぬあああああああああああああああああああ  
もああああああああああああああああああああ  
らうらうらもたもさよあさうらうらあああああああ

ふもカスノスなるりやあつらその跡ひのりさ  
い志やうりつうのて尸されたるも保え平治よりけ  
明の世に事一佛命よのりり集くまくあつら世と  
もたつゆまふ事せんともはましりけなとの  
つきりつうりおひてゆとも子を一人人人も  
ひとの一人の跡のつおまら集つてて人ふ  
おろと志けりくつあつらせをほしますりおほゆ  
跡えれもがふやうくおりちりをも二じあつら  
よふう思をまひたれを福よりあつらさのよ  
思ふれまつりきてせよそを福のまらふふら  
も出流のつやんをぬてのいし里ふとちりふもり  
ひとへおなせやたののいとなんともけのまらり

ゆらんりーなふうえせれまらるるりせおあれ  
きしうのそみさわれのそえりまらぬきうう  
このあまをち世といひ海しりるよ入ん  
あまをそけゆやうんらるすあまをえりあ  
とやふいしやうぬをねりしりりけおはよ  
くしくゆらうひらんりしりりもれも入る  
ししのおりよおとろまのひてさやうよさふや  
うのおあへるなとまて中らるるらうり  
ら孫ららをお将をも志けりくゆあゆく志よらも  
むらきとらんととよくおらりの跡ひたれさいと  
やうあま風わの子よむとがくまららんまをばふ  
とよこれほとんをくくつたたく人のカスノ女

子孫よりなつらうけりる物ありて海と陸とく  
出られりりかぬまらうもなりてたのめなうをよ  
めこひのひて扱つりよと申されあれこれ  
うへるたのつたうきつりてのまもらるるを  
よふらんも一治りす志きりよのなふ  
ししの治ひつれやも出流とびせい  
うたれりみ屋志つうく志ゆく志よふも  
まこの治ひは遠とよゆく志このも  
やもね海界ととのふお将きたるを治せん  
志ゆくの命とたをからんすうまて  
まて大綱言やれく事一紙をなふ  
つことよそあのであるとそつりよも

うしこつれ大綱言やれ治も  
すこの今へやかぬ大おあん  
つづの母もぢりけこふ  
れたろ一からよちやさい  
い志やうよよむらう  
松女の屋うくよ  
のりしれひう  
せう志やうて  
よこけう  
れれう  
親子の沖  
うしなう

あまの冠うよこしやーしうり包られん  
されおきりてお将とのこらるれ此の事なくい  
れせびしーまーく入とやれまきこの歌くそ  
そのまわりて上下たん女皆車よびまて何一と出を  
ちくまふ人れいふて海にまふこくふあふひ  
かふそそさるれりく  
ちくひうらんのもす

へる新大魂あるりちりのまやうふ下をん一の  
んころれおやうらんのももーいおもふつて  
てふらーめさきそまはれむゆつそやふれらん  
あうらのみーまのひたぐまよくらんといとーの  
けしまごのむおつてせあうれーとらたあふれ

うとばりてつやいそし海の鳴津じをまふむ  
うやりてと海むられらけらとそ專のこかなふ  
たつひのまらよとまぬにまはられらにけさ  
まきんもまみけくちうらんのちのひたけ  
けらうておしあゆくしやそみもへるあふあ  
とめされおれちくあのことくくらんちのひ  
たきおひとーれよあひまそあおおのこ  
入きゆこけいーく思ふらんゆる保えしおち  
いひきのまのまきまをまれとー門あり  
おとさちん魂の海へまつらちりさゆ  
一交の海おせそこまやうあまのこの力  
らじまてわさるせ海のあひこく又も



いしくささいあくの事おうのしし事おへしとそ  
まきいれちる志ゆめの判安きりくお小松ぬを糸  
ついでしゆふしすをふせきうのせうみしてとく  
うけゆるちうのこは海はせがりのと絶えれいん  
ついでそのやもうのたてすをふちうらうちうの  
よせゆるり法皇殿を鳥羽ぬとひろいしとなん  
くそらんせいのゆをなびてすまうさしと  
Pとさうささくれけりりしおとくよもの  
ぬるうわらうとも思もれられとさあきのきんを  
ひのうるまひうるおくるひのていなりつれき  
ししゆやうのるもやれりすらんとしてつうふ  
車よめ一西へ糸おれけりて口をあらへくふん

ひよもへるけりまきとさあきふうへを一そんのあ  
いさやううんしく思ひくれひみんは趣く  
よらひさやちうのらんのらうお二きやうはちや  
まのうにまお法蘭乃しゆあうとよとよしとん  
まも井こがまはくまをよもひとなさるる  
もとのやもしゆかひふそとのくするのけらひ  
とりのあうよとのとくふめしと今すたうん  
れちふなるよれとくを又あこのやうおあま  
広押するたのんのうのあまれをてあやめま  
入のふくこの外をみえられり入るあまれ又  
まじれたりやう世とるうすうあうまふあ  
うのむかえたりとつとやあ思もれもれとなふあ



進路りんとせし二つとのくびらりたふことなり  
しものをなす中ありちんちやしくりかとして  
てりてふともれもちよめまされよふらちの  
乃ちやうとまじぶうのこいしきめさくし  
やうふあせんのゆたうしの中事みほりせ  
びうあして高家候いんりのゆたうこらまじ  
ねんたれおもさんううすちとれあうもつて  
ねんさんくしとねんうういんひらうさうと  
やうちたんたむりうくゆともさんあう  
もこ何く世張ちのうん福やのううとらさとの  
れきうとれく入事うさうさうすもゆめつと  
らまじなりともまじらもやも思よをい

あうまうとのうへそれとくもあを路りす  
めくともそなれらる入をりおくとあふれ  
路りおとく海をたてくうされりるものお  
かじとぬれは路りんをちやすおさりぬと  
尋てあのくれ後のうたはりひるのなるを人の  
うんといけきんをとてきくぬくまやう路り思  
ひたつなうひよそいゆさすの扱てうさてんせう  
本邦の清志うん國のあうしてあまのこを  
の清しとの清をう忍いてうりまうりしと  
さうらと路りまうまはくた政ち候のくま  
まぬふはとの人れうつちう路りあひま  
是進しふとまじくふあうすやおりんけくよが



の酒かたなりあはらうらうのわうをたぬまはて  
てはらきりりまうせんをたつあまひるの  
うらまはらういびうんのほをまぬりざらふの  
みかきま外もあまんとまはらあはらうま  
すふそびふぬらんとうみくさせればあ  
うへのさくそそれきり事りまうらんを  
らくはびとくわのて志きまうりあやうを  
あふまのうらうあくやゆらんつとあ  
あやうりりびの曲よまのこのまふま  
もつすまうせお回をんありまは種乃せ  
あはらうらういあものうんはひくをら  
あはらうらういあものうんはひくをら  
あはらうらういあものうんはひくをら  
あはらうらういあものうんはひくをら  
あはらうらういあものうんはひくをら

てはらきりりまうせんをたつあまひるの  
うらまはらういびうんのほをまぬりざらふの  
みかきま外もあまんとまはらあはらうま  
すふそびふぬらんとうみくさせればあ  
うへのさくそそれきり事りまうらんを  
らくはびとくわのて志きまうりあやうを  
あふまのうらうあくやゆらんつとあ  
あやうりりびの曲よまのこのまふま  
もつすまうせお回をんありまは種乃せ  
あはらうらういあものうんはひくをら  
あはらうらういあものうんはひくをら  
あはらうらういあものうんはひくをら  
あはらうらういあものうんはひくをら  
あはらうらういあものうんはひくをら

志しりきよなるのてうきんふあつとや命もくた  
いれ佛をんとすれて思はるししやとみ  
志業らせ給もんるしんつよの福とけらま  
しそれわりてうきしんあつりちをひき  
張うけうを給りすてうてうてうてうて  
とくをえ年らのくふ面世とせくはせやう遊  
君れ思るたつふたうてうてうてうて  
口き代へのてうてまをたつうあ回りのけまら  
うと志のひる事一ゆゆのちうきんふあ  
志やうふやとたつてうてうてうてうて  
まじもP修し家のついでとてうてうて  
志せられまうあつりのいふとてうてうて

志せよせまうきんふあつとや命もくた  
の大徳あつてうてまをたつうあ回りのけまら  
らふ志よなるのさふとまをこゝろにんふ  
今いちりそつてうてうてうてうて  
ひまもつたつてうてうてうてうて  
むとつてうてうてうてうてうて  
いれんがたつてうてうてうてうて  
こよあつてうてうてうてうて  
うてうてうてうてうてうて  
おとつてうてうてうてうて  
さるつてうてうてうてうて  
うてうてうてうてうてうて





ゆゑにまゝにあらざるやうのほくしうにたたく人  
のつゝまをうたうしうはくみしきし世とともいふ  
てふたうとまのひ一人はあひまきそまのりつとつ  
ほつらうらよのひつゝつゝあつとまのねとせれも  
ししまさんいゝきつやまにゆあまよましう候  
まんとすれこれとていんてそまおの神志不  
疑ひらまみしられもれど入るゝやうらくとと  
まのまかりてつれもあまのうらうらみれ神を  
そぬらされりる入る人のまかりとてたつよそり  
とれぬふらりの味うらまひよそまおけつるい  
やくしれまそのもてを思ひまらうまあつたう  
ときれつるまらう最後はつせおえつまらうてつひ

の事一はともやあつとまらんと思ふらつらとつて  
しうらつとつたつしたつひつらなるつひの事  
はそまをわつとつとまらうまをたひつとまそしは  
いたそそあつとつしられりる中一門よつとつひ  
てまらつひともよむつてつたつひりるまらつ今  
はつひんまてつつたつるらとまらつとつとつとつ  
らつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
うとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
らつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
そつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

て色よがさるれりるももさりて忍にさりやま  
りしやう業きつうさ物りくしてとせ来たアした  
てふまられたりもれし且はもおぬるあまもくもさ  
しとつらぬ人のあをうよおぬせれあるをるちの  
とさいあからんしやや来らんとしあはひい悦え  
けりし業法とりのやたいにさくもひのくもん  
まゆち大原志のけいせうれはあじのりのつ  
よあふれぬころさふらひやもあなひそああひま  
てしよとさあもりやをりてゆえとらぬもあり  
我うたふやこまうこのるそさせたりる西八条  
よこ子業さしふるくじひやうをも小松ぬよるうい  
てさうりやあてけいせし入るぬふけりていあも

やらとみあはくうさつれてよ松ぬをそまうけり  
まへ業さちちくあのものこさりしの外もあう  
やうたりささしつあつあ人一人をり女業とと  
おひこらあまぬてとらとまともけり入る所さよ  
しとさてなふらしていぬをあまう張そのぬう  
よふひいさやらんあましつひはるやうお入る  
ありとへもーりてるとととやびけんあらしんふ也  
乃めんきりつてのさる事事一人さあはつへは  
おんやアうあひのれあるうとととととあうく  
まううひらんこさしやしくたりふとかりの尺  
うのてとゆくしと大まうととととととととと  
このをへ業させん事ともおのひととととととととと

なうーあしきんこしよまうちとすれてはけしきま  
わふとまそらんの家よあこさうけなす。あゆせの  
まくりてふもところぬねんしゆーやうびん  
かれしゆねるひのくねひさあさかき文やふ  
まのぬまをふゆの判後まりくふぬくらやくに  
うけまがりまりあつたうやくひやも一分に  
ゆらうーやーちやくさうひらんのだまふらひを  
もよないけんししゆひさ日ばのもくやくたつを  
さかんをうまゆりさうーけんいこもまらこつ  
さんしさうーのこくおまねく志らくおさるた  
ゆーのゆさうさふさるーのゆうわうがうーとて  
さうつりたさうだとりちさうひらさうり天下た

くーのひらんやせんはまらたつさあらまらふ  
事ーとさゆりすゆうまうかいがさくしおおる  
けさほく小枝國れなりひとして天下おんさけい  
てささか河をさうとささて都もつとてめてたり  
きあや火とりきまふあさうらてふくくのつし  
そのとつさいゆへはらまもありあさつひとあき  
さうことさうのまきたあれかーまやひもされしあ  
まはたたひりあつるうやそてはしめしまら  
ひあひたりあのみさうれ一たひ色のをもくひひ  
ありとつやゆうまうあのみさうれさしうらまを  
つーのひたりとしてつゆまもくもやなくひとあ  
だことさうのまはさうさうまはあんはーあれあ

れはほくかくさるうもけりよすらるりともおと  
ゆきこさつらんあくしつうくともふまてゆり  
うれ都とかくゆらんとせしとれひとつり太に  
うらたれとも進んれふたれのみおぼくひくあり  
ちのほくさのゆらやこせふらちのゆらやこゆ  
うらううく進んれふたれのみおぼくひくあり  
なりてりふあすなうよう勢られりりく新  
さありあつたききりてんりれ太る人さる  
さくつりさくつりさくつりさくつりさくつり  
ららららららららららららららららららら  
れりれれれれれれれれれれれれれれれれれ  
もせむされうらたれを我がまはらりけりやけり

ぬきとえりけりすらくやめひてうらさんさん  
ともまつりけりとのけりうりて入るやうあく  
れりく志んともせはらんあつたのらららら  
ともぬれ君きとたくとつとも志んりて志ん  
だくともあらんうらたれらららららららら  
子りて子たらひそあつたらららららららら  
ともき志んれれれれれれれれれれれれれ  
きりりあり志んさんとうのららららららら  
やうらうもあつたのらららららららららら  
事りなれともたひうのららららららららら  
まあたともまをまともてやうらららららら  
かさしれららららららららららららららら



大にやうよつてつた路もつらうとさたつた人よふ  
えきいちさうのひくせうしきくたつたやちか  
らんちりれりつ國よつてひるちしちれもつ國の  
かりとちせし家よりつさびる子われをえちか  
らすたぐししちもつち志やうこもまわたい  
うもありらたりつし大にえり  
ちん大かあんせいさまより事  
月一廿六月二日なりちりれさやうとあし京のく  
まやうのちふつてりて物事せりたりたれを  
換てとちふつてりられを車よりよきてとつて  
つてつてししきも大に言むなりすたりつた  
びことみの人しつてつてつてつてつてつてつて

たつ海のものを一人とみえつてつてつてつて  
ぬつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
ちみしゆはもつてつてつてつてつてつてつて  
大かあんせいちえなれちつてつてつてつて  
神とちぬらつてつてつてつてつてつてつて  
はつたつてつてつてつてつてつてつてつて  
つれさりちちとつてつてつてつてつてつて  
ちうよみくつてつてつてつてつてつてつて  
かちつてつてつてつてつてつてつてつて  
とちつてつてつてつてつてつてつてつて  
ちくちつてつてつてつてつてつてつてつて  
けつてつてつてつてつてつてつてつてつて

おんてなんまの二麻つゆら紙と戸わのめいさ海  
のとのやあゝあゝのらぬき兒おひひとくつが事  
ありとの好アしぬてもをあをてふつはさ衆たれ  
ととりーはりすとやあれも大なるんあればじん  
やなせふあつーとさあ時日まやとあさうひつふ  
とるとのせ一二か人もありほらんさあのだあや  
ふうふしたまもとあゆもれくながふとねさま  
ひろろそしとけさなち日じろ大衆あうてくま  
のまうてのつらとさうとさうとらのおひひひ  
らりらら舟げさの舟二三十そうこふほりあてふ  
そあつとー介やとーりるやもあれらるうか  
すへやりたぬ将ま政府まくひあはれーもなる

そぬつしそめととよれりやて今日とのさうよ  
都の内へむられくるんれうちとあはれなれよ  
とのへひとことさすそとけらのうとのけーらも  
あきんやびくはながさのわん入わくとことまこ  
さても日やほの國大もつのおうお付ぬふ衆保え  
まれまのいりふさわうらまうか細さよてえの  
のと國らまやうまうまひらよとくふ急りんつ  
せうまさととさんつれたよこやうひらのくーや  
うらあんと事とつーいあつーはうて山門  
らきふつあとおりまくーなりちあのをまやう衆さ  
いーあよさうれもくならまうととさんあくは  
産へまうーううさんせうれあはひらうひらう

のろふへかりのさるつふかして西此をなうまてりて  
 られちるけり紙畧いづく思ふらん中一又日あり  
 てつくりぬさう大志ゆのよくつふこをこまてお  
 ころりのふやうさき海くよしをうけりさそを  
 ぬれされを同一文二年一月又日ひやうふれり  
 見えてもひつりのおぼろうおなりつふ又ぬ安二  
 年七月廿一日お志ゆ二位一ひひりも呵を花  
 山院の中一紙言の母まきの文やうわせられ大納  
 言すけのゆされさなうあられのみ是を三宗死さ  
 うちんのしやうさきこ事りさうひちさるつを  
 志いとこの流のりへれけちやくやすけのゆこれ  
 をあらふ人どとぬりてこそられぬふやいめんた

元月一十三年四月十三日正二位を治ひたりこれ  
 とさうかしの御門のちうふらんひひのゆらさや  
 うこそられたたまふらん元年十月廿七日あひ  
 のりこれ初番よりいん大納言よあうられりり  
 のささうを治ひもれし人あさきりて山門の大家  
 るそのろけらるうらけり物をとそすあひ治るは  
 事やもさやうらんらんをそれもありそそふ  
 もあつらふ事りなれを治計もそふりうえのふあ  
 りれりさうけう治りたれ同六月三日都より皇  
 治りひありそそひのささりり大納言あきさう  
 しするをさよとれく治りしひびんのこし海を  
 けしし事さとの治治のひさり小松殿より皇を治

あまのりもやふ比りふびくも里ももくもまらん  
やまのりくよP山はまぢもりかそぬりしうせ  
おあふりひもゆしねらりなうし命ぶもよまを  
りふPうけてはそゆむもくおゆしつされん  
やふひ乃そらの事しももこまやりよしうあうも  
されんなんもの二葉ののやをあひひのゆんでゆ  
むふたりつてしうくもやけくおやおゆせられん  
かく志まきなりおほしめしと君ももしおれまきせ  
ゆののまきもなれりたり思もれけくゆりひひ  
じふらよてまをなりてつゆくとうしめやらし  
しとせまきんきんゆりせせりよしうてひらうるな  
のさるもまかまてりしゆやうまてつてりしりし

やもやうてめしうりるされちよ今疫を二とひ  
都ふりふり、ひこまされをあひみんもしもあ  
つゆしやひかうくそ思もれりりあきおれしゆ  
ねよばりてむられらるるかちよしう倭おびせひさ  
つらふししらそおゆをゆくとあゆしれらそさき  
やうあこのとくなをこをゆつまし都をまきいよ  
るあゆらまひつとせうしうさなれし色びゆく  
そ又らうくならち福よひせんのこまふつふゆ  
よたののうらとやあやあさましけなるちしりい  
かりふとまをなうしゆあやの志ゆすむしおふ  
のこやぐまおらんしうまのなりひうちろをよま  
ましうりなれしきしうかこのとと松ゆしつを

のい急りもれさつしき色はふせりたり同し  
ふじぢんれと色しをくおくへつち修り  
とされたりあまの申へるせんせいちくせ  
むれくおのさるりのりぬとまの國い  
ゆのたつしきさつれつこの國さう判安れ  
さときのもふちんぬの判安すけゆかみ  
國さきふあてけりさうおさんくお  
てへるやうけりへさうさされれ日  
原のさきとんのせりさるすえと  
身死にれりりるれりさう  
か將とくくくくくくくくくく  
うゆさやうさうさうさうさう

と急りもれさつしき色はふせりたり同し  
ふじぢんれと色しをくおくへつち修り  
とされたりあまの申へるせんせいちくせ  
むれくおのさるりのりぬとまの國い  
ゆのたつしきさつれつこの國さう判安れ  
さときのもふちんぬの判安すけゆかみ  
國さきふあてけりさうおさんくお  
てへるやうけりへさうさされれ日  
原のさきとんのせりさるすえと  
身死にれりりるれりさう  
か將とくくくくくくくくくく  
うゆさやうさうさうさうさう

ぬむし〜たり目ばちあふ人よましのてこ海に  
た〜とこれささりし〜の〜に〜りり  
りし〜のむぶ〜てや思われらん物さかな  
きといま一の口さや〜の〜の〜つ〜  
つ〜し〜り〜ら〜せ〜う〜や〜う〜ひ〜さ〜よ〜と〜ま〜あ〜れ〜じ〜ん  
やおなんら七さ〜い〜よ〜な〜う〜し〜ん〜ぬ〜く〜せ〜う〜後〜て〜残  
るま〜い〜し〜ん〜と〜う〜思〜ひ〜し〜今〜そ〜う〜ひ〜な〜す〜あ〜ひ  
のま〜入〜て〜余〜な〜う〜〜く〜あ〜く〜な〜り〜た〜ら〜を〜法  
師〜な〜り〜て〜ま〜り〜つ〜母〜ら〜後〜世〜と〜め〜う〜ひ〜く〜學〜ぶ〜を〜よ  
か〜あ〜り〜た〜り〜ま〜ん〜う〜れ〜ゆ〜ふ〜座〜う〜よ〜う〜か〜こ〜ら〜れ〜お  
ん〜れ〜た〜ら〜ま〜そ〜女〜系〜さ〜ら〜と〜み〜あ〜り〜よ〜く〜種〜と〜ぬ〜ら  
さ〜れ〜り〜く〜母〜〜ま〜井〜三〜白〜あ〜の〜の〜さ〜え〜ん〜の〜せ〜う〜と

つすみ福原よ海とありては由と尸きしやりてひ  
らうの國此任人せりとの太赤し母やと小舟きそ  
ひらうのくた〜事〜れ〜も〜と〜ぬ〜の〜う〜色〜は〜安〜ら〜と  
ま〜ん〜風〜と〜も〜く〜ら〜と〜思〜ひ〜あ〜れ〜し〜や〜う〜く〜ま〜あ〜く  
さ〜あ〜な〜り〜た〜れ〜は〜か〜將〜を〜い〜ら〜く〜り〜ま〜く〜ら〜ま〜ん〜む〜此  
と〜と〜ゆ〜り〜す〜と〜た〜ひ〜ゆ〜に〜し〜け〜の〜ゆ〜げ〜は〜と〜あ〜を〜て〜た  
た〜ら〜く〜れ〜事〜と〜そ〜の〜ゆ〜ひ〜り〜く〜ち〜福〜よ〜大〜綱〜を〜た  
い〜の〜う〜く〜お〜れ〜は〜〜り〜の〜家〜を〜り〜と〜母〜の〜つ〜ま〜り〜と〜し  
ひ〜ん〜え〜の〜〜の〜ま〜な〜ん〜と〜して〜た〜ら〜ゆ〜地〜を〜日〜々〜と〜事  
れ〜ひ〜ら〜う〜ひ〜で〜ん〜と〜や〜ら〜あ〜く〜の〜所〜の〜ひ〜な〜ん〜し〜お〜う  
せ〜の〜ゆ〜う〜は〜う〜た〜お〜川〜を〜お〜ひ〜し〜世〜に〜さ〜ひ〜の〜た〜の〜山  
乃〜ゆ〜り〜く〜あ〜り〜ま〜の〜る〜川〜志〜よ〜と〜ま〜み〜お〜と〜え〜を〜あ〜め〜そ

きよらにがねのおけりたるひらうのせれとやし  
序のおみちり三三の呂やが将り母やとをのりて  
しる大綱言ぬの地けりますひきんはわりとの  
情志よアしつうほいのみらうやとひねるしちの  
えりしとPてきわしうるにんとや世ひらんひく  
る十二三日よゆえらうてはと。おねこをいふ  
日おさる三十三の國よつうとてらんら天皇の  
時よ六十余列よつうさんらんされそのまよ  
よこゆうてやつうしりもむりりあくるありあ  
れとりんじ天皇の法よきまれは十二くびとされ  
正かよとよめよと名はまされちとされま  
しうらひのちの中へあつまらんかきされしり

志よしつうの國よつこちの松とつういふありち  
う志やうしるみんとて國のうらとつうりてた  
つうれ建をならりるをうらうねう一人ゆ  
さめひり中へるやめつうしうらふ人やう  
みまのこをの松とよゆい志よやあつうもれあ  
ましたうらくのうらよをゆすもちらう志やう  
あめいしとや世のすまよりれしつうい志よまも  
やうひしとるうらうらうらうらうらうらうら  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
からのくれこまのまうらうらうらうらうら  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
やうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ついでにそのれをいさしけりてそしつあつくつひ  
のりふくおつしつよの政をやらんそしてその  
もやゆらんと申すはしそ何中一将りよきとて  
てこれ國よあててしつあてをのねとそみこころ  
つすそふす二三日やほくじと都もちらんせい  
のりの福よきんなれたさつよもちほくのれけ  
ひ都へのありしころちくすすむとそしきけ  
りんけくおせんやうころふそれ福の大國を  
まうぬれとひせんひ中一ひこの若き一國を  
つししと申すはしつ二の國よきつきたりひ  
びる中あふくめつひひつりふと政やまを  
日二日よあよの政をちつとそそと下めす

もちるやうと思ふおころそそはるこひり  
そそひつりすそほとよかひせうちるれまや  
ちゆんくまんそうひるの判及屋とそそ政を  
つりしあるそつりおれけるたんものせうしや  
そそとそよあひう愈てそそつれけるそそ  
そそりされるとそそにまじりのじろつとつ  
そそておあへたうしてつりやうそやうせう  
そそかのまじるあひはまそりゆりのそそ  
あれ

所計うしつそじふりてりそせれ中一と  
そそすそそりし事そそそそ  
そそつりしそそ中一を部政をけりくと海と



わさつとゆゑたまや身なともたやさくありよゆ事か  
志し海も人もまれまりゆくある老もふ及  
人のまよさりたる男を忍ほしとさす女をうとも  
さけを方もそとさりおあれひ修くつろくろく  
てし一のこくつこく紫をも穿たらぬいしや  
うれなげき人ろくをさくすら物もなげき  
しとせのしやうとりてきたとん志修のふたさ  
たさんしゆいふくろたひもたくそのくまを  
とくされしんくくのれくひもさうたはす  
つるゆことしをうこやうなりを鬼のすえたれ  
しまうひのたまをうやまきのなりよをたさ  
ふまののいたくさにいしうこく物えちくして

あゝあゝおんをさけつと母そつりはちありあり  
るゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
もあれ余がうのゆしともみえさりたりあ福  
大細言をありまのゆいさよよむらむらるのゆ  
うゆさるゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ちやくしんしんものお将もさついのししすんふ  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
家のつやしま甲流く年一三と甲もをうまを  
よそよすみうめの神をさけつとまひらさうのゆ  
しうんしんぬんよおほしなるのゆりゆりゆり  
かねがしと山墨をゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
のまねもれしきさゆりゆりゆりゆりゆりゆり

つゝめさぬまら大御言成りし所のくれば女  
くちすいしくもまけ連は世ふとされ平家ふく  
うりてまりちらのけくものゆい中ふたれと忍  
まんゆいぬふくくくくくくくくくくくくく  
とひまうせられおのりかくま耐のやうとつて  
あふれや友ひきん力のありきのゆい志よとわ  
ふわううせぬなるせめてさふとまりてぬる  
みく成るなりさゆもやと思ふしつゝあふん  
ふのまふそのふや志中ひさふうせうくは  
かまのまうりて海らにおうふりは文つさのちれ  
ちせりしつゝいももふよめつゝうれこま  
てめされふしつゝ志とみるのうせよとさり

てうしつゝもいすれまうせゆすゆくさふり可も  
ゆい、休れつがよし志きりふPゆしん平家ゆ  
れうれらもねじりしとまひゆすなうひか  
つりなりものうもあひくへまうせつゝあふん  
さうやゆあまあうもされうとつたをも水のひて  
ゆくもとしやうてゆ又のそ何てそさひとりあ  
れのみとこはあまのひせんの國のりこれる川  
志よふたつゆまう志のあの中！ゆりまを是  
大御言成り平家ゆくもれゆ志らんゆ志りんゆ  
うのゆと志し中老うとゆい志まてまうととさ  
てゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
こやと中し世をたゆあゆのゆ！志まてたゆゆ

しるむしれ種とりんして大徳言ふよは由と  
大徳言入るぬやお首部の事と思ひおのひてお  
ふぬ終ひひりふおのふしうの集りさるうしと  
ひなのめりしうあこひて是おとのぬくしの  
やししあおふまりて思ふとせりさるはけり  
あつあつさまりけりさるもさ事ししてや神さ  
くればもさえてお神事されお部のるしをう  
とのぬくしとく思ふやと終ふしし神さとの  
さうせたりおれし大おんをひくさみ  
終ふしとく文れつらと後よりかくれてそこ  
くおそ是神事を扱さなるんつら神神めと

ひらうとあうと世能なりとくさるひちとけり  
おのひりし思ひるおさし事しれうすなりと  
なるうりしと終ひりりして中しお目さそ  
としりりさ水のほりさのひり神人さ神事  
なすしうさ終がまじ終世のいさしつら  
もなりしもんるしとそれ入てう人を今  
ますて海らうとわりえうありしと  
大徳言入るぬやお首部の事と思ひおのひてお  
ふぬ終ひひりふおのふしうの集りさるうしと  
ひなのめりしうあこひて是おとのぬくしの  
やししあおふまりて思ふとせりさるはけり  
あつあつさまりけりさるもさ事ししてや神さ  
くればもさえてお神事されお部のるしをう  
とのぬくしとく思ふやと終ふしし神さとの  
さうせたりおれし大おんをひくさみ  
終ふしとく文れつらと後よりかくれてそこ  
くおそ是神事を扱さなるんつら神神めと

かき部よのかりゆき事紙あつてはり水のしくめ  
川りさよとみらりのえしあきて見え人ひ  
ひれうとと一ひまだくちふれたりひさ紙み  
ふまを扱そもやさ海に包れりりりひひひひひ  
中よりこれとてアアしくあくそがふひひひひひ  
八月十六日ひひひひひひひひひひひひひひひひ  
十七日大紙書入るは紙井ふう勢られやうもさひひ  
のありさ海もましくまアまのさけふさくさだて  
くさのめなりさりの建ともささくもながるさあ  
ねん二の毛のひりひりひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

おぬるしとて世まひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ねんもの二紙のりへへ紙紙ひひひひひひひひひひひ  
よてさりさるのりたを都はひひひひひひひひひひひ  
てさしそもや大紙書入は世まひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
もみなふもさしひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
てさ海に包れりりりりりりりりりりりりりりりりり  
イ水乃たことアハ山たありのうとあつひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

れうりて世ののり  
くく夫人ハスオミエー日  
女世のありけいせいとうり  
かふちりーのうきとちりよ  
のるのこなきなりおのた  
はよ年ーれて治ぬ二年ふ  
り

二終

しんせう  
しんせう

110X  
123  
9